

供給が需要上回り、「バランス崩れやすい」と指摘

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」、コロナ禍後初の会合

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会会合が、新型コロナウイルス問題の発生後初めて、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、世界的な生産増や外食産業の回復の遅れなどから 2020 年は「供給が需要を上回るとみられ、市場でのバランスは崩れやすい」と指摘した。MMO は、欧州連合(EU)の生乳クォータ制度廃止後の需給に見合った生産や透明性向上のために開設され、価格や生産・集乳、貿易などに関するデータを掲載している。経済委員会会合は 2020 年 3 月 27 日にも予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でキャンセルされていた。以下に報告書の要約を紹介する。

MMO 経済委員会の第 34 回会合は、下記のミルクサプライチェーンの専門家らが参加し、ビデオ会議で 2020 年 6 月 26 日に開催された。

COPA-COGECA(欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)、EMB(欧州酪農委員会)、ECVC(ビア・カンペシーナ)、EDA(欧州乳業協会)、Eucolait(欧州乳製品輸出入・販売業者連合)、Eurocommerce(欧州商工会)、CEJA(欧州青年農業者協議会)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、以下の点が強調された。

EU(27 カ国)の 2020 年 4 月の集乳量は、前年同月比 0.8%(10 万 7000 トン)増加し、同年の累計としては 2.4%の増となった。アイルランド、イタリア、オランダは、最も高い生産量の伸びを報告した。九つの加盟国では前年同月より生産量が減少し、うちフランスでは 0.7%、1 万 5000 トンの減となった。各国内で自主的な減産措置がとられたためとみられる。全体としては 2020 年 1~4 月の集乳量が増えたため、クリームと濃縮乳を除く全乳製品の生産増加につながる。他の製品は、全脂粉乳が 8.3%増、脱脂粉乳が 1.5%増、チーズが 1.4%増、バターが 0.7%増だった。4 月の飲

用乳の生産量は 4%と大きく増えた。

4 月の平均庭先乳価は 1 キロ当たり 33.53 セント。2019 年 4 月より 3.1%低いものの、過去 5 年間の平均を 5.1%上回っている。5 月の推定価格は 33 セントを超えているが、乳価は乳製品の市場動向に伴い遅れて動くものであるため、さらに下落する可能性はある。

バター価格は、年初の 100 キロ当たり 368 ユーロから、5 月 10 日には 281 ユーロまで下落した。ここ 5 週間で立ち直り、318 ユーロまで戻したが、前年よりまだ 19%低い。脱脂粉乳価格は 3 月中旬から 4 月中旬までに 100 キロ当たり 191 ユーロに急落したが、その後は近年の水準(214 ユーロ、2019 年を 4%上回る)まで上向いた。チーズ価格は、昨年水準に近い変動をしている。今後の動きは不確実だ。脱脂粉乳、バター、チーズを対象とした PSA(民間在庫補助)(*2)を発動したことで、市場心理は上向いた。

脱脂粉乳の民間在庫水準は、「生産量+輸入量-消費量-輸出量」で算出すると、12 万トン前後での変動となっており、標準的な水準だ。欧州以外への継続的な輸出などが要因だ。2020 年 4 月末のバターの在庫量は、初期に在庫が多かったことと生産の増加から、

前年よりわずかに多くなった。欧州以外への輸出も高水準で、市場の均衡に貢献した。チーズの在庫量は、一年のこの時期としては標準的な水準。輸出も盛んで、市場の均衡に役立ったとはいえ、都市封鎖に伴い外食需要が落ちた半面、小売り需要は異常に強く、ゆがみを引き起こした。

世界的には、2020年1~4月の主要輸出国・地域(EU27カ国、米国、ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン、ウルグアイ)の供給量は1.7%(うるう年調整済)増加した。ニュージーランドだけはマイナスで、1.7%の減となったが、オーストラリアは気候に恵まれ生産の回復が続いたことで4.4%増、アルゼンチンは7.6%増となった。米国では5月に集乳量がマイナスに突入した。コロナ禍で引き起こされた変動は米国で特に顕著であり、不確実性を高めている。南米では、2019年から生乳生産は回復しつつあり、特にアルゼンチンでは第1四半期は収益性が改善したが、第2四半期の庭先価格低下と乾燥した気象条件のため、この傾向が逆転する可能性はある。ウルグアイの生産量も改善しつつあるが、2018年の水準を下回ったままである。

中国、英国、米国とサウジアラビア、アルジェリアが、2020年1~3月、全乳製品についてEU輸出市場のトップ5だった。コロナ禍の影響は、貿易面の数字にはまだ完全には見えていない。世界的感染拡大前の3、4月の数量が既に弱かったためだ。失業率の上昇、国内総生産(GDP)の減少、国民の収入減少、原油価格の低下、さらなるコロナの感染拡大は、輸入国の経済に影響を与え、乳製品の需要を減少させる見込み。コロナ禍に加えて貿易紛争、米国の追加関税、英国とのEU離脱後の貿易の最終的なかたちは、依然として大きな懸念事項だ。

都市封鎖で、消費チャンネルに影響が出た。一部の加盟国では、家庭用の牛乳乳製品(バター、飲用乳、フレッシュチーズ)の購入が2019年第1四半期より増えた。家庭内での調理が増えたことが要因だ。高品質チーズ(GI=地理的表示商品)の販売にはマイナスの影響があった。オーガニック乳製品の売上高は増加を続けているが、増加率は低かった。

牛乳乳製品市場は不確実な時期にある。世界的な生産増加、貿易を巡る緊張、負のマクロ経済指標、外食産業の回復の遅れなどから、今後数カ月は不安感が高まる。2020年は供給が需要を上回るとみられ、現在の市場でのバランスは崩れやすい。生乳生産はそれに応じて調整する必要がある。コロナ禍の世界的拡大と経済的な下降からくる不確実性は、消費者、また酪農家の自信にも影響を与えている。

参考資料:

*1

https://ec.europa.eu/info/sites/info/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2020-06-26_en_0.pdf MMO economic board meeting report - 26 June 2020. European Commission (2020年7月6日参照)

*2

https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002692.html 「欧州委員会、新型コロナウイルスの追加対策を採択。乳製品、牛肉などの民間在庫補助(PSA)を5月7日から。チーズは最大10万トン市場隔離へ」農畜産業振興機構(2020年7月7日閲覧)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)